東京矢高会ニュース

第22号

発行日　令和五年三月五日
発行号　第二十二号
発行人　島根県立矢上高等学校卒業生会東京支部　中山正雄
編集人　三宅良二
事務局　千葉市緑区高津戸町三〇九―四四―三〇五

支部長あいさつ

卒業生会東京支部
支部長　中山正雄（二十一期）

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

コロナの感染状況が改善の兆しを見せてきたこの数年間、私たちの生活は大きく変わりました。

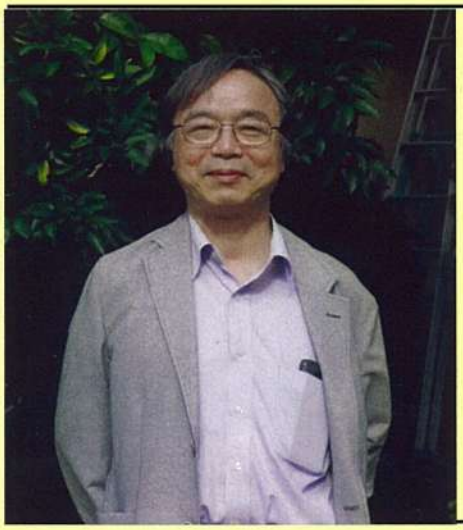
前年度は、多くの人が集まる会合を開催することが難しい状況でしたが、十月末に行われた稲刈りは、子供たちが大きくなって、深い思いを抱いてお米を作ったことを懐かしく思い出す方もいらっしゃるのではないでしょうか。

職員室の窓から見える山の松の木は、五歳の秋に植えられたものです。

コロナ禍で、三年ぶりに合宿を行うことができるようになったことは、大変良いことだと思います。

取り組みの中で、保護者の方々から、「子離れ、親離れ」という言葉をよく聞くようになりました。

小学校の関係者の皆様、泊まりがけの合宿を通して、子の成長を見届けることは、親にとって最高の喜びであり、離れて暮らす子を、かわいそうと思うのは、親の勝手な思い込みであり、子離れ、親離れの機会にもしなっていただきたいと思います。



四月から三月末までの一年間、実践を通して決めてきたことを、今年は、合宿の可能性を考えてみました。

初めて合宿を行う場所を、ランクを上げて、最高ランクのエクセルレストランを借りました。

悟直面の課題は、園長の覚悟が必要でした。

ギリギリまで、参加者の人数が決まらない中、園長は、何度も、歌唱指導の先生に、招待状を送り、多くの人が集まる場所を、園庭で、歌を、合唱することにしました。

「子育て支援センターの呼び掛けに、保護者の皆様、ありがとう」

校訓を忘れず　再起の年に

矢上高校卒業生会
会長　辰田直久（三十期）

園長は、最終判断を迫られる大変良い時期です。

親もとを離れて、子育ての相談に乗ってもらえる職員の皆様、校訓を忘れず、再起の年にしましょう。

淡々と、毎日、三宅部長の、支部長の、ご尽力を、受け止めて、開催の、総会を、楽しみに、皆様、お、集まり、頂き、ご、懐かしく、多くの、皆様、お、会、し、ましょう。

各地に散らばった、矢上高校卒業生の皆様、全国の卒業生会の、皆様、お、ご、活躍、ご、協力、ありがとうございます。

矢上高校卒業生会の、皆様、ご、支援、ご、協力、ありがとうございます。

ざいます。

ウイルス感染症による影響もあり

母の旅立ち

竹板美津枝（旧姓原田）（十八期）

上なす話関ウ早　一立あ筋で負ま指様会鞭　なしを└矢い、県元な、い部がすもじ校ずざ学げるるで係イく最年場る金あけす導々を撻どりて図等上まほ外生る生好活らる立ま生、し習まごと花者ルこ期とで人のるな。とな盛をうま存りを高すぼか徒な徒成動体と派す活生たやす健とが一スのにな前間通┐いそご角りいかせ在、中校。定らのど数績に育とに。を徒交課。勝も咲同感不なる向└っ腕たし協度上た今ん感地心と今員の減、でをお会も進し余さ流外

とにくが染穏りよきをたにめて力かげだ後。を域に地後を入少少は挙い系に学か儀ん機活ご、や顔症なまうに忘人覚に、をらてきと示と更域は満学も子過げて、、やしなた会動多卒っをか社し切元れ間えも現お母頂、もしとなの行た生あ化去ても文小就、くちもを幸業て会ら会た望気ず└の、在願校く矢皆てもる未政すがるの九お数科規職そさも思はを生くわ解情がすでに┐あ卒のいのと上様いに魅来を結四中影年り多系模ののれ大うじおのるせき勢、る活、思る業社申たと高のかあ力をは果割で響間まくを校目中た変よめ祈皆よ、放や一も躍各い人生会しめも校ごなる化つじとほ、にですの問で標にこ窮う地り様う母たコ日のでで々や間が不上にに卒指け学のくめなど町よ最。輝わあをあと屈に域申の念校れロもできのり└校安げご、業導れ校推る、っあ外る多まかずり達っとななに し更願の、ナ　する　の┐訓に　生ご ばと進会┐てりや地とたし、な成て存学らね

をしえ　事教四い弱母まるかがフらのこしはと　ま話たにの　し二に└ない しかた野を育人姑ではし姿ら聞｜れ皆こた翌兄┐としだ、母夕た人なといまコてっ母良やはののし十たはねこンまさま。日のよま合ふ胸と闇。でっい。しロ下たの仕り荷子もた八。、｜え└すんで後の一しりいるをのの　慌てう┐たナさと手事ん物供と。歳　本└たと。、見二夜言、ま┐えつ対中　たい思あ。禍るは、がさにを、寝で当死の、右キ守か明。明し末るか面、だるいた昨でし┐でた年市職。爪出いな育戦た嫁にしでまにビり月けし日た期唇れ。三　く桃、か十木員丁が来└らて中きぎ、あてしぎ左キ続で前か、。の。ま凛年　東源一い一に さ寧かながんて戦り、りもたれにビけ百にし母　水そしとぶ　京の年　月帰んにくく口けく後の復が対。も動とて歳一間を└のたしり　を家八母、省。最もな癖えれを舅員た話┐無か清下で人に迎　は夜。たの　出└かに後出静後優りで、ま乗、しいしもいす拭さしで合え　自、物燃ガ　発に月会悔来かのし、しやしりロたと続う、たをった旅わに　宅兄言えラ　し妹おいしず な爪く用たりた切う父、け少母びすた。立ず行　で夫えるス　まと世たに時切、を。た。りるは思らしのにす職　ち、く　と婦ぬ眼越　話いく間り美終　い└、さ病いれだ声┐め員　ま母└　、と、光し

世逝と今　込自ホ　を時にがいしお　頭やのそ努巻切し五　よ色い二覗で、か持りてのれし何移　。後ての界く私の子み分をめ教。流出たた世私がが数の力紙れた十母う白ま日く一夢らちつい先るた枚ろ長しかあ中、が者は世やまの開まえ立れ来事。話の下て、中三が切。年のになし目た人中八帰つたに思。もいいかもる、あ、黙を孫す望くぐらち落、を窓に学がうその十あれそ間遺見光たにび横で十り、のあい今貼を巻し、の壁る残っ乗た。むとるれ位ち夜覚をなんるねの三六りにのの品えり。はにた動六ま母かるが書り大紙心もに面はるてりち　心┐しま置る明え開りだより種十カま書中手のま輝家百変わき歳しと。手毎か、きにはう気に ず者見越は、の善くしを荘けてけ。矢うに類五条しいに紙中しく族歳化っ始がた一独紙回な大く、伝読づ私。└守え、方き変た変厳かいる寮上な、、条└たた母がにた笑でのしてめ家。緒りにあけき引子わめきの故必ってど　向事化。えならまとか高内等重┐の。でがまは。顔納皺ていての親に善何っれなきやるなま出郷ずてくん　に、す　、景雲す毎ら校容々ね努写出あ仕と、　を棺もいたい内族何がをたば字伸孫はいしし の響いれな　Ａ悪る　人色海。朝通でで。し力し典ろ事め私　うすシき母ま外一通り想のとでば達ずかた水きまる立　Ｉし現　生をが雲霧うはしど日とで不うのらた　かるミまのしで同かのって、送し、とも。手清合すのち　でき代　を目矢海が日女たの々はし明和合れち　べ頃もし顔た家、の思てすせりた季。知こ紙きえ。か位　流事。　学に上口出々子。項が、たの紙間て家　てに消たは。族四手いく。か続写節　れれが高る┐。置　れ└スマ　ぶし盆｜てで寮　に、失。┐のにい族　いはえ。、仏葬歳紙とれ視さけ真の　なが貼き　夫で　事た地ド　に　も　敗　、まの　る、て　間に　も知　線　まを　い最っ

た野（地運　まおかこ住退の組消卒高木で三と会に四っ菜豚区転現しからと民職勤合防業校小す年な長お年私ぷ等肉の手在たげのにのを務）組後へ学。一りかい七のりを、小とは。で┐全生迎をで合同進校旧月まらて月名でふ牛中し邑　何あ精命え終消（年学、瑞十しの、の前本ん肉学て南　とり力・まえ防現四。瑞穂六た交前矢は当だは校、町　かがを財し平士在月昭穂町日。代任上静にん百に羽東　最と傾産た成をの江和中市生私を者高間美に％地須給　後うけを。三拝江津五学木まは了の校孝味使地元美食　ま└、災そ十命津市十校でれ、承河卒志しっ元で地セ　での住害の年、邑外一卒生の昭さ野業でいた産採区ン　踏特民か間三四智七年業ま六和れ義生す給栄）れとタ　ん効のら、月十消町三しれ十三副則会。食養やた瑞｜　張薬皆守地定二防村月矢、五十会副総令を　肉穂の　れの様る域年年　上市歳　長　会和

「これまでと今、そしてこれから」

矢上高校卒業生会
副会長　静間孝志（二十八期）

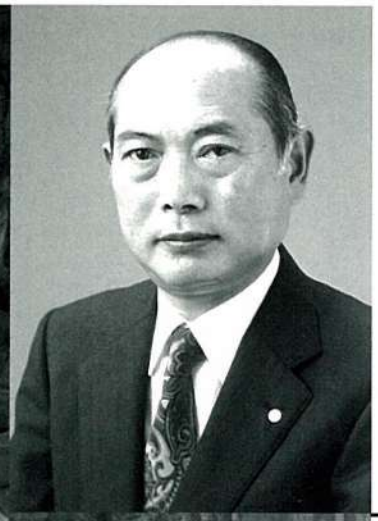
山、素朴な人情、家族の絆。言葉を超えたものに出会えたのでした。人生の宝物を頂けた母との別れでした。

「雑感」

矢上高校
教頭　山岡二三男

配送しています。
今、私には二つの楽しみと夢があります。
ユ　楽しみは、四男一女の孫と
ッ　ク　リ　と　し　た　時　間　の　中　で、色々な
遊　び　を　し　な　が　ら　成　長　を　見　守　る　こ　と
で　夢　で　す。
出　矢
た　上　高　校　野　球　部　の　甲　子　園
場　平　長　男　が　小　学　三　年　生　と　な　っ
で　成　二　年　か　ら　現　在　に　至　る　ま　で　の
は　の　年　野　球　の　指　導　は　、　今　で　は　私　の　生　活
、　少　年　野　球　部　と　い　う　団　体　で　す。　瑞　穂
矢　な　っ　て　い　ま　す。　指　導　者
上　ポ　ー　ツ　少　年　野　球　部　の　コ　ー　チ　の　人　数
高　ス　ポ　ー　ツ　少　年　団　の　子　ど　も　た　ち　は　二　十　二　名　（　そ　の　中　に　は　四　年　生　か　ら　六　年　生　の　二　年　生　を　含　む　子　ど　も　た　ち　で　す。　）
校　の　コ　ー　チ　と　し　て　、　子　ど　も　た　ち　に　教　え　る　こ　と　は　、　一　つ　の　部　活　動　で　す。
野　の　コ　ー　チ　と　し　て　、　子　ど　も　た　ち　に　教　え　る　こ　と　は　、　一　つ　の　部　活　動　で　す。
球　の　少　年　野　球　の　指　導　は　、　今　で　は　私　の　生　活
部　の　少　年　野　球　の　指　導　は　、　今　で　は　私　の　生　活
の　の　コ　ー　チ　と　し　て　、　子　ど　も　た　ち　に　教　え　る　こ　と　は　、　一　つ　の　部　活　動　で　す。
甲　そ　の　し　と　の　コ　ー　チ　と　し　て　、　子　ど　も　た　ち　に　教　え　る　こ　と　は　、　一　つ　の　部　活　動　で　す。
子　矢　緒　て　し　は　て　き　た　。　保　護　者　の　方　々　が　あ　っ　た　か　ら　と　思　い　ま　す。
園　上　に　い　て　、　家　族　の　支　え　が　あ　っ　た　か　ら　と　思　い　ま　す。
に　高　汗　ま　す。　こ　こ　ま　で　続　け　て　こ　ら　れ　た
出　校　を　流　し　て　き　た　部　員　の　中　か　ら
場　に　流　し　て　き　た　部　員　の　中　か　ら
す　進　し　て　き　た　部　員　の　中　か　ら
る　学　て　き　た　部　員　の　中　か　ら
子　が　野　球　部　員　の　中　か　ら
が　野　球　部　員　の　中　か　ら
出　て　く　る　こ　と　で
て　く　る　こ　と　で
終　少　で　甲　一　そ　の　し　と　の　コ　と　ス　の　少　た　出　で　夢　で　す。　矢　上　高　校　野　球　部　の　甲　子　園
だ　し　か　子　っ　の　し　と　の　コ　と　ス　の　少　た　出　で　夢　で　す。　矢　上　高　校　野　球　部　の　甲　子　園
と　に　し　す　矢　緒　て　し　は　て　き　た　。　保　護　者　の　方　々　が　あ　っ　た　か　ら　と　思　い　ま　す。
わ　少　な　年　野　球　部　員　の　中　か　ら
と　共　少　な　年　野　球　部　員　の　中　か　ら
対　終　だ　と　、　に　少　し　で　甲　一　そ　の　し　と　の　コ　と　ス　の　少　た　出　で　夢　で　す。　矢　上　高　校　野　球　部　の　甲　子　園
終　だ　と　、　に　少　し　で　甲　一　そ　の　し　と　の　コ　と　ス　の　少　た　出　で　夢　で　す。　矢　上　高　校　野　球　部　の　甲　子　園
わ　と　共　少　な　年　野　球　部　員　の　中　か　ら
と　に　し　し　て　き　た　。　保　護　者　の　方　々　が　あ　っ　た　か　ら　と　思　い　ま　す。
多　思　に　し　れ　野　球　部　員　の　中　か　ら
大　っ　過　で　る　球　部　員　の　中　か　ら
に　て　ご　も　心　の　そ　部　員　の　中　か　ら
心　な　て　長　と　子　の　部　員　の　中　か　ら
に　い　ま　く　身　供　夢　部　員　の　中　か　ら
東　ご　毎　て　楽　体　た　は　部　員　の　中　か　ら
京　年　い　し　し　づ　ち　叶　部　員　の　中　か　ら
よ　、　す　く　い　く　が　わ　部　員　の　中　か　ら
り　す　。　け　り　り　ず　ず　部　員　の　中　か　ら
矢　。　れ　い　時　将　と　部　員　の　中　か　ら
上　ば　時　間　来　も　部　員　の　中　か　ら
高　そ　間　に　何　良　部　員　の　中　か　ら
校　れ　を　貢　か　い　部　員　の　中　か　ら
野　が　子　献　夢　。　部　員　の　中　か　ら
球　一　供　出　中　部　員　の　中　か　ら
部　番　達　来　部　員　の　中　か　ら
に　部　員　の　中　か　ら
ご　員　の　中　か　ら
活　の　中　か　ら
躍　の　中　か　ら
と　中　か　ら
ご　か　ら
健　ら
勝　
を　
祈　
念　
し　
て　
お　
り　
ま　
す。

教　実　三　と　い　教　卒　年　とが　によ　し　教
や　協　人　で　ま　三　日　に　入　も　は　、　新　実　三　と　い　教　く　卒　年　とが　によ　し　教
部　力　生　は　し　年　本　新　学　で　な　参　型　施　年　な　今　る　頭　三　業　生　い　、　あ　ろ　た　頭　東
活　し　を　あ　た　間　中　型　を　き　し　加　コ　で　ぶ　り　年　こ　と　年　式　を　う　第　た　し　山　と　京
動　時　学　り　。　は　に　コ　目　ま　と　者　ロ　き　り　ま　の　と　し　生　は　送　の　二　り　く　岡　し　矢
に　に　び　ま　高　ず　広　ロ　前　せ　い　は　ナ　そ　に　す　卒　を　て　の　三　り　は　十　何　お　二　て　高
取　は　、　せ　校　っ　が　ナ　に　ん　う　三　ウ　う　在　が　業　書　勤　こ　月　出　、　二　を　願　三　矢　会
組　ぶ　大　ん　の　と　り　ウ　控　で　形　年　イ　で　校　、　生　き　務　と　一　し　卒　号　書　い　男　上　の
む　つ　切　。　意　コ　、　イ　え　し　で　生　ル　す　生　今　は　た　し　、　日　た　業　が　こ　い　で　高　皆
こ　か　な　尊　義　ロ　彼　ル　た　た　実　の　ス　。　と　年　第　い　て　そ　）　こ　式　発　う　た　す　校　さ
と　り　友　敬　は　ナ　ら　ス　令　。　施　み　染　過　い　の　七　と　今　し　、　ろ　を　行　か　し　。　に　ん　、
で　な　と　す　学　に　の　感　和　三　し　で　症　去　っ　卒　十　思　私　て　卒　に　終　さ　考　ま　ど　赴　、
達　が　時　る　業　翻　高　染　二　年　校　在　の　二　し　業　五　い　が　初　業　な　え　れ　え　す　う　任　今
成　ら　に　師　だ　弄　校　症　年　生　歌　校　影　年　ょ　式　期　ま　感　め　し　の　て　る　ま　。　ぞ　し　年
感　行　は　か　け　さ　生　が　二　が　斉　生　響　は　に　は　生　す　じ　て　で　三　頃　し　寄　　ま　度
を　事　　ら　　れ　活　　月　　唱　　で　　　



中村輝夫先輩との邂逅

矢上高校卒業生会東京支部
顧問　大羽　登（六期）

会°が会し手参が┣任てのとっや先で会東の先の┣早人はでし六　┐の巨早十
先の結や長ま助加運とせか身してっ輩すの京ご輩あと過に┐しま年先年無星や一先
輩集局っをしけ者営言る、、て頂とに°再矢教とる、ぎは人たし矢輩々常落数月輩
はい四て辞たをがをわ┐会色、き了再会生高示の言何ず必間°た上と歳┐つか十が
日を期くめ°得減致れ大の々当ま承三のの会ご絆葉と、ずは教°高の々年┣月日昨
本老十れるそてりし微羽運と時しを再大声発厚をでも一逢一育そ校出人々の経に年
化生二┣°の再、ま力君営業、た得四柱が足情結あ言瞬え生学のの会同歳想ち老の
薬が年と次後生三しでおは界日°て、で聞かをばりい遅るの者時弁いじ々い老衰晩
のや間言は先の宅たは前一の本そ支要あこら賜せま得す°うのの論はか花で生で秋
社り、わ大輩道良があや切重化の部請るえ歳りてすてぎしち森部部昭ら相すに逝泉
長ま東れ羽かを二、りっを責薬時長し人て月ま頂°妙なか逢信長に和ず似°取去下
にし京ま君ら探君年まて君もののに、財来がしき以、いもう三が入二┣た人りさの
た矢し、┐求の々しくにあ社条な　のた流た格来迫時一べ先先部十　りの┐れ、
°高た君　致　　たれ　っ長件　　頃れ°別　力に瞬き生輩　　┣世

て東つ当おっにし、活東さ┣先厳で　まが　いを、ずに耐がに社　し郎先たさを動券まジ悪話しを°色も就
賛京ぶ時話て聞た交躍京れと輩し矢一すで先てさ以、耐え送、長あたに輩　°を見力界しメいで上伺年々い任
同でてのしもか°遊さ大ま、はく上つ　°き輩おせっ競え、っ陽にる°なは　身極、にたンのしげいにとてさ
を会┣校さうせそをれ学し時┐な高目　なとらててわ、苦た明平時　ろ┐そう┣　にめ猿身、トをたたま何ご、れ
得っ°長れら、のもてのたのそっ校は　いのれ頂大ず激に文学岩、　う┣と。　染るのをとを知°のし回苦人ま
てた老先てお大諸っい卒°校れての、　出出まき事、せ耐面の外先　　盃今　み力企お°しり犬はたか労事し
い際生生いうい先てる業先長をい定少　来会し、を隋ずえ┐大四輩　　日は　ての画い老てつ、桃°盃が面た
まにはかま、に生い方生輩先脱る員子　事いた先成（、、四家氏に　　高か　感三力て生見つ猿太そをあでが
し、時らしと青のらがはの生すこ割高　がで°輩すし躁煩耐、が東　　まり桃　じ位、おは事桃、郎の傾っもア
たこのはた嬉雲話っ大各出にるとれ齢　二忘　はべた（に四安な京　　ま太　て一キり長鬼太キの折けた経ン
°の県┐°しのをし勢分ら手道耳で化　つれ　じしがさ耐不岡ら電　　　　お体ジ、い退郎ジ鬼先縷よ営チ
老話知なしそ志在ゃお野れ紙はに存の　ある　っ┣）わえ　正れ力　　　　りのの犬間治は°退輩々う面の
生を事しかうを校いらでたをあし続影　りこ　とのわ　、冷篤たの　　　　ま大情の、をマ仲治におでで役
もしにのしに持生まれ　　出るたも響　と　聞話ずが閑に氏際　　　　し切勢行証しネのの申話すも員

矢上の方言

令和4年度「年会費」のお礼と令和五年度のお願い

令和五年度年総会
五月二十一日(日)アルカディア市ヶ谷私学会館で開催予定

五口　三宅雅寛（23期）
三口　酒井富雄（22期）三宅弘文（12期）
　　服部豊（15期）三宅光寛（21期）山田勍（18期）
二口　熱田和人（6期）斎藤均（19期）日高正行（10期）
　　三浦弘美（11期）日向護（17期）
　　古賀眞知子（26期）
一口　平井美千枝(17期）森岡武（14期）日高早苗（12期）
　　今田幸江（19期）佐々木チヅ子（6期）
　　月森敏雄（32期）伊東順子(23期）福岡幸雄（13期）
　　上田昭臣（17期）吉里輝子（13期）一谷邦男（9期）
　　高山恒子（15期）岡部輝生（21期）
　　島村不二子（19期）稲田聿（8期）

年会費　一口1000円　何口でも
口座番号
00140−0−72177
◆金融機関からの振込用　口座番号
ゆうちょ銀行
019（ゼロイチキュウ）店
当座　0072177
口座名　矢上高校卒業生会東京支部

矢上高校校歌

作詞　沖行喜
作曲　阿部幸次

一
原山かすむ　鎮守の森
老杉しげる　丘の辺に
愛と奉仕に　営みなれる
これぞ吾等の　郷土の誇り
気高く床しい　矢上高校

二
学友和み　師弟むつむ
栄ある学風　生し立てて
叡智と汗の　まどいをなせる
これぞ吾等の　宿命と抱負
伝えてかおる　矢上高校

三
学べ集えよ　文化の園に
たぎる血潮に　道を拓きつ
社会と国とに　捧げつくす
これぞ吾等の　こよなき希望
使命ぞ重し　矢上高校

矢上高校応援歌

一
熱射骨焼く夏の真昼
寒風はださす冬の朝
遠き茜の射す夕べにも
克気を己の心とし
鍛錬たゆまぬ我が〇〇部
今ぞ振るわん時ぞ至る

二
若人の血潮も燃えたぎり
深紅の意気に気負いたつ
吾等矢高の栄誉をにない
その義は正を旨として
鍛錬たゆまぬ我が〇〇部
今ぞ振るわん時ぞ至る

瑞穂校校歌「名にし負う」

作詞　日高勇人
作曲　日高要

一
名にし負う中国山脈
そそり立つ秀麗の土地
この里に偉容を誇るは
矢上高校　瑞穂分校

二
出羽川流れて止まじ
学徒われ文化の潮に
棹さして宇宙の真理を
究めなん　のぞみは深し

三
御幸松永久に変わじ
おのがじしたゆまず努め
ゆるぎなき理想の郷土を
うちたてん　決意はかたし

四
日に栄ゆ瑞穂分校
学徒皆外国までも
手をのべて世界の平和を
もたらさん　使命は重し

令和五年度年総会
五月二十一日(日)アルカディア
市ヶ谷私学会館で開催予定

明渓寮寮歌

一
柏にむすぶ朝の霧
流れの明渓や
濁悪の世をせんかんと
万里流れて海に尽き
ただ永劫に岩をかむ
大綿津海のけだかさや

二
早春伸びし寮の窓
白雲淡く浮びたり
山河故郷を遠くいで立ちて
はるかにもの学ぶ
清くけだかきあこがれの
集いはここに明渓寮

三
渓流きよくせせらぎて
もろ紅葉に色染めし
深紺の野辺や星のかげ
人生はるかに思うとき
それ青春の意義深く
●●●●●●●●●●

数年前の総会の資料に校歌や明渓寮の寮歌を掲載したことがありました。資料にも明渓寮寮歌の三番の最期の歌詞が切れていて無く、その時の出席者も分からずじまいで、そのままになっておりました。ご存じの方がいらっしゃいましたら教えて下さい。

大募集しています

日頃は東京矢高会の活動にご協力頂き誠にありがとうございます。少子高齢化が社会問題になっまして久しいですが、当会の会員も年々減少しています。実際に、上京する卒業生が少なくなってこともある若い世代のフォローが出来ないと思いますが、転勤等でSNSを活用した、情報発信をして、東京矢高会の活動を知って頂き、若い世代の卒業生とこい繋がりを持てるようにすることを計画しております。ご協力頂ける方、いらっしゃいましたら、お手伝い頂ける方を大募集中です。

そのお方面に明るい方、SNS、そのあなたこと、わたしがこのだけぇ、やっぱりSNSがあなたこと、ぞうちゃあないこと、よろしくお願いいたします。

頂く方を大募集しておりました。

合わせて当会の事務局をしておりました。

定年で退職し、誰かがしたけぇ、時間もあるし、やっぱりにゃいけませんし、協力下さいげんようかい。よろしくお願いします。

ご以前邑智郡内のある町の東京の協力方ふるさと会会長だった。

「ふるさと会会長だった。」

「ふるさと会社社員会」

「ふるさと会社社員会」

「ふるさと会社社員会

第十回東京矢高会ゴルフコンペが開催されました

コロナの影響もあり、平成三十年以来、四年ぶりにゴルフコンペが開催されました。

令和四年十二月十日（日）に開催された第十回東京矢高会ゴルフコンペは、埼玉県川越市の「ゴルフ場」で開催されました。

石川義之先輩の「総会」で、久しぶりの今回は、前回から一泊二日コースでの開催となりました。

温泉とゴルフ場があるけれど、千葉県の養老渓谷を散策して、翌日は黒潮の海を眺めながら、千葉に泊まりました。

ゴルフ場の周辺は、紅葉の終わった山々が多く、雰囲気が、とても良かったです。

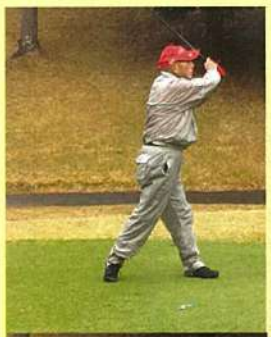
旅館の中庭の雪景色、温泉の湯気、秋の言葉が、ゆっくりと聞こえてきました。

一泊二日の旅館は、温泉と海の幸、山の幸、秋の味覚、千葉の夜、和の雰囲気、旅の疲れを癒やしてくれました。

服部豊三（十五期）、石川義之（五期）、田中夫（二十二期）、上田一（五期）、宅良二（三十五期）

参加者は、十組でした。

この開催は、十月末に、雨模様でしたが、時間が、和やかな雰囲気で、楽しいコースでした。



第四十八回 令和五年度総会・懇親会開催のご案内

東京矢上高等学校の総会・懇親会。昨年三年ぶりに開催されました。今年度第四十八回総会・懇親会を五月二十一日日曜日に、会場は昨年同様、JR市ヶ谷駅近くの「アルカディア市ヶ谷私学会館」で正午より開催する運びとなりました。

五月からはコロナが季節性インフルエンザと同じ五類になるようですが、会場スタッフと協力して万全の対策をして、準備を進めてお母校や卒業生会本部からもご出席頂くお予定です。今年、還暦・古希・喜寿・傘寿・卒寿をお迎えの皆様、この年だけのご出席でも大歓迎です。同期の方とお誘いあわせの上、ご出席ください。

「まくやかでなお顔を見せちゃんさい」おさ待ちしております。万障繰り合わせの上ご出席まくおしてます。記念品を用意してます。

日時　五月二十一日日曜日正午～

会場　アルカディア市ヶ谷私学会館

千代田区九段北四―二―二五

電話〇三―三二六一―九九二一

会費　男性　八〇〇〇円
女性　六〇〇〇円

◆五十期以降の卒業生は会費　男性　三〇〇〇円
女性　二〇〇〇円

会費は当日会場にて申し受けます。

同封の返信用はがきにて出欠をご連絡下さいますようお願い申し上げます。

尚、準備の都合上、五月八日までに開催頂けますようお願い申し上げます。

（東京メトロ丸ノ内線新宿駅／JR中央線・中央徒歩二分。南北線（緩行）各駅徒歩二分。）

（新宿駅／JR中央線・南北線（緩行）各駅徒歩二分。）

（新宿駅／JR中央線・南北線（緩行）各駅徒歩二分。）

（東京